

事後評価説明資料（千提寺地区）

- (1) 整備方針概要
- (2) 数値指標の達成状況と効果発現要因の整理
- (3) 今後のまちづくり方策
- (4) フォローアップ計画
- (5) パブリックコメントの実施について
- (6) 今後のスケジュール

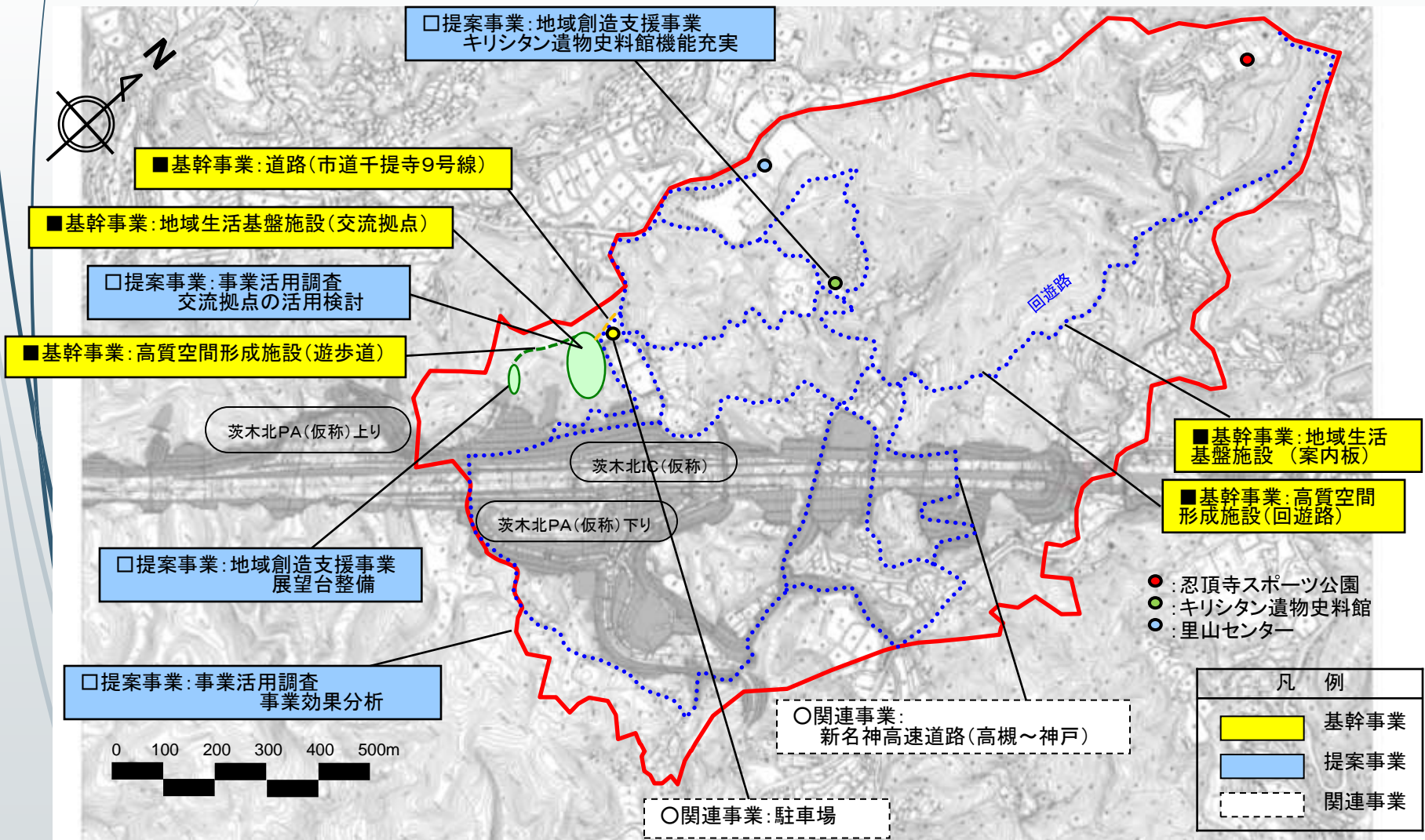


(1) 整備方針概要

○整備方針概要図

【目標】豊かな自然環境と貴重な歴史・文化資源を活かしたにぎわいある癒しの空間の創出

- ①都市部の住民と地域住民による交流の促進
- ②将来の新名神高速道路の整備インパクトを活用したまちづくりの素地づくり



○千提寺地区の事業

▶ [基幹事業]

- ・ **道路（市道千提寺9号線）**：W=5m(に拡幅（L=80m）
- ・ **地域生活基盤施設（交流拠点）**：遺跡広場の整備（A=7,300m²）
- ・ **地域生活基盤施設（案内板）**：回遊路と名所を記載した案内板を設置
(N=5)
- ・ **高質空間形成施設（回遊路）**：転落防止柵、階段等
- ・ **高質空間形成施設（遊歩道）**：W=1.5m(に拡幅（L=180m）

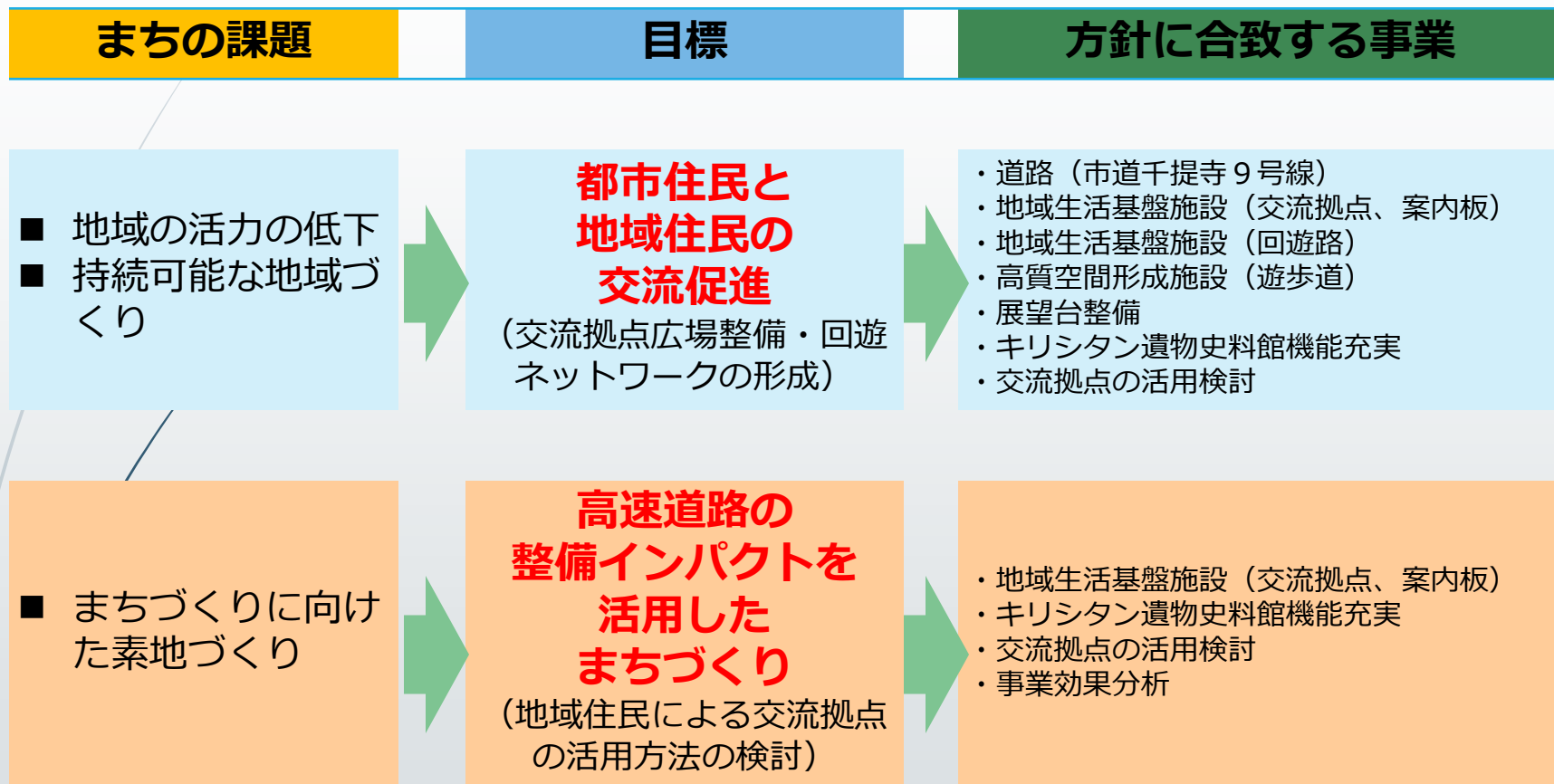
▶ [提案事業]

- ・ **展望台整備**：展望空間、通路の整備
- ・ **キリシタン遺物史料館機能充実**：遺物紹介用DVD、墓碑レプリカ作成
- ・ **交流拠点の活用検討**：交流拠点を活用したまちづくり方策を検討
- ・ **事業効果分析**：事業効果を検証し、今後のまちづくり方策を検討

▶ [関連事業]

- ・ **新名神高速道路**：高速道路本線、IC、PAの整備
- ・ **駐車場**：遺跡広場の駐車場を整備

○都市再生整備計画の整備方針



※交流拠点における文化財調査（試掘）により複数の遺構が出土したことから、広場を将来のまちづくりに活用していく。

○目標・整備方針と指標の関係

【整備方針 1】

【目標】都市住民と地域住民の
交流促進

交流拠点広場整備・回遊ネットワークの形成

キリシタン遺物史料館の機能を充実させ、共有山において交流拠点の基盤整備を行うとともに、主要施設間の回遊が可能な自然遊歩道ネットワークの形成を図る。

【整備方針 2】

【目標】高速道路の整備インパクト
を活用したまちづくり

地域住民による交流拠点の活用方法の検討

共有山における交流拠点の基盤整備と並行して、交流拠点の具体的な活用方法について地域住民とともに検討し、交流人口の増加を図り、その事業効果について検証を行う。

指標 1：来訪者の満足度

主要施設への来訪者アンケートによる地区滞在に対する満足度

指標 2：既存3施設への来訪者数

主要施設への来訪者数

指標 3：まちづくり活動への参加者

地区で開催するまちづくり活動への参加者延べ人数



(2) 数値指標の達成状況と
効果発現要因の整理

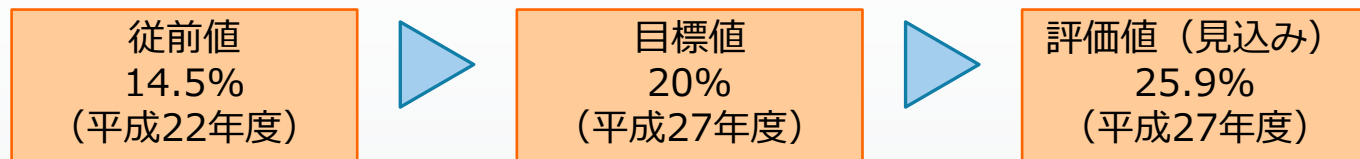
[指標 1 : 来訪者の満足度]

定義 : 主要施設への来訪者アンケートによる地区滞在に対する満足度

- ▶ 従前値の計測
 - ▶ 実施方法 : 主要施設 (忍頂寺スポーツ公園、キリシタン遺物史料館、里山センター) にアンケート調査票を設置し、回収
 - ▶ 従前値の計測方法 : アンケートを記入した場所以外で干提寺地区を「訪れた (訪れる予定)」と回答した割合を算定 (地区内を回遊した人は来訪により満足したものと推定)。
 - ▶ 実施期間 : H22.8月末~9月末
 - ▶ 回収数 : 76通
- ▶ 目標値の設定
 - ▶ 来訪者の5人に1人が地区内を周遊することを期待し、目標値を20%に設定
- ▶ 評価値 (今回) の計測
 - ▶ 従前値と同様の方法により、アンケートを記入した場所以外で干提寺地区を「訪れた (訪れる予定)」と回答した割合を満足度とする
 - ▶ 実施期間 : H27.8.1~8.31
 - ▶ 回収数 : 108通

[指標 1 : 来訪者の満足度]

▶ 指標 1 の計測結果



▶ 効果発現要因

- ▶ アンケートの自由意見において、地区の自然環境や歴史資源を評価する意見が多くみられた。
- ▶ 遺跡広場（千提寺菱ヶ谷遺跡）では、遺構が発見された様相を直接的に知る機会が創出された。また、市道千提寺9号線及び駐車場の整備により、遺跡広場へのアクセス性が確保された。（見込み）
- ▶ 自然を肌で感じることでできる回遊路及び遊歩道が整備され、展望台の整備により都心部などを眺望する空間が確保された。また、散策するためのきっかけとなる案内板が設置された。（見込み）
- ▶ キリシタン遺物史料館でのDVD放映やキリシタン墓碑の展示により、隠れキリシタンの歴史や遺物への理解が高まった。

▶ 【まとめ：総合所見】

- ▶ 事業の実施前から地区に対する来訪者の期待度は大きく、今回の整備により回遊性が高まったことから、来訪者の満足度の向上につながったと言える。

[指標 2 : 既存 3 施設への来訪者数]

定義 : 主要施設への来訪者数

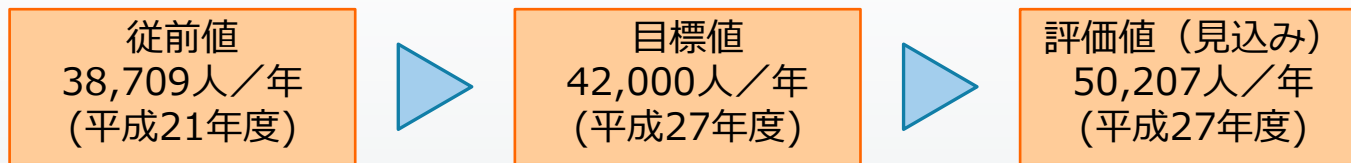
- ▶ 従前値の計測
 - ▶ 従前値の計測方法 : 主要施設 (忍頂寺スポーツ公園、キリシタン遺物史料館、里山センター) への 1 年間の来訪者数を集計
 - ▶ 計測年度 : 平成21年度
- ▶ 目標値の設定
 - ▶ 来訪者が減少傾向にあり、約 5 年前の水準に戻すことを目標とし、目標値を 42,000 人/年とした。
- ▶ 評価値 (今回) の計測
 - ▶ 従前値と同様の方法により、主要施設 (忍頂寺スポーツ公園、キリシタン遺物史料館、里山センター) への 1 年間の来訪者数を集計
 - ▶ 計測年度 : 平成26年度
 - ▶ 忍頂寺スポーツ公園は平成27年 1 月から 3 月まで下水道工事により休館中であったため、平成27年4月から12月までの実績を年間の来訪者数に換算した

	従前値 (平成21年度年間来訪者数)	目標値 (約5年前の水準に戻す目標)	評価値 (平成26年度年間来訪者数)
忍頂寺スポーツ公園	29,944 人	—	※ 36,465 人
キリシタン遺物史料館	6,248 人		6,351 人
里山センター	2,517 人		7,391 人
合計	38,709 人	42,000 人	50,207 人

※忍頂寺スポーツ公園は平成27年1月～3月まで下水道工事により休館していたため、平成26年4月から12月までの実績を年間の来訪者数に換算した。

[指標 2 : 既存 3 施設への来訪者数]

▶ 指標 2 の計測結果



数値目標を達成

▶ 効果発現要因

- ▶ 遺跡広場（千提寺菱ヶ谷遺跡）を訪れた際に、キリシタン遺物史料館を訪れた。（見込み）
- ▶ 回遊路や遊歩道を散策した際の休憩に忍頂寺スポーツ公園や里山センターを利用した。（見込み）

▶ 【まとめ：総合所見】

- ▶ 自然や歴史に触れることができる施設等の整備により相乗効果が発揮され、既存 3 施設への来訪者数の増加につながった。

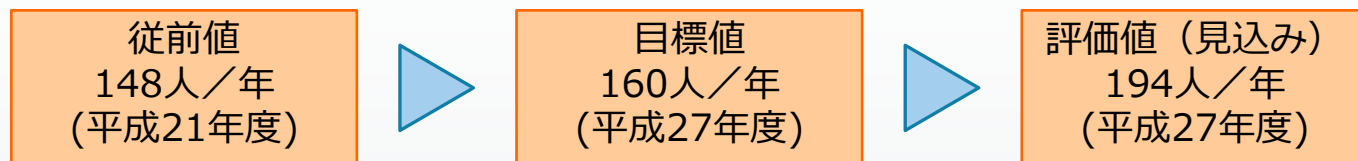
[指標3：まちづくり活動への参加者]

定義：まちづくり活動への参加者延べ人数

- ▶ 従前値の計測
 - ▶ 地区で開催するまちづくり活動（まちづくり委員会、まちづくりイベント等）への1年間の参加者延べ人数を集計
 - ▶ 計測年度：平成21年度
- ▶ 目標値の設定
 - ▶ 都市再生整備計画事業の最終年度である平成27年度においては具体的なイベント活動がメインとなり、まちづくりに関する議論の回数が微増にとどまると想定し、目標値を160人/年とした。
- ▶ 評価値（今回の計測）
 - ▶ 従前値と同様の計測方法により、地区で開催するまちづくり活動（まちづくり委員会、まちづくりイベント等）への1年間の参加者延べ人数を集計
 - ▶ 計測年度：H27年度
 - ▶ 平成27年4月から9月までの上半期の実績を年間の参加者延べ人数に換算した

[指標3：まちづくり活動への参加者]

▶ 指標3の計測結果



数値目標を達成

▶ 効果発現要因

- ▶ 交流拠点を活用したまちづくり方策の検討にあたり、行政による基盤整備だけでなく、住民自らができることから取り組みを行う必要性が共有された。
- ▶ 住民、ボランティア団体、行政の協働が推進され、回遊路・遊歩道や展望台の伐採、除草等の整備が行われた。
- ▶ 案内板の掲載内容の検討にあたり、住民によるイラストの作成や名所の検討を行った。
- ▶ 千提寺地区を散策し、自然や歴史に触れ親しむイベントとして、春と秋に「千提寺さと巡り」を開催し、そのための準備や開催内容の検討を定期的に行った。

▶ 【まとめ：総合所見】

- ▶ イベントの開催や回遊路の整備など地域住民がまちづくり活動を行う機運が醸成され、まちづくり活動への参加者数の増加につながった。

○成果の評価について

- ▶ **定性的な効果発現状況（事後評価シート（原案）に記載）**
 - ▶ 都市部の住民に地域の魅力を知ってもらうイベントとして、千提寺地区住民により「千提寺さと巡り」が開催された。
(平成25年9月、平成26年5月、平成27年4月、平成27年11月の計4回開催)
 - ▶ 案内板のイラストを地域住民自らがデザインし、回遊路や展望台の整備にあたっては、地域住民の協力、ボランティア団体の協力を得て伐採、除草等を行った。
 - ▶ 遠方までハイキングに赴かずに市内の回遊路を散策することができ、高齢者を中心とした健康づくりや生きがいづくりにつながった。

○実施過程の評価

- ・ 成果の評価だけでなく、結果に至るまでの実施過程を検証
→ 「持続的なまちづくり体制の構築」について、
実施過程の評価を実施

▶ 持続的なまちづくり体制の構築

- ▶ 実施内容：千提寺まちづくり委員会の開催
- ▶ 千提寺地区の住民により開催（市はオブザーバー）
- ▶ 事業実施前の開催頻度は不定期で、行政が実施するまちづくりに対する意見交換が中心であった。
- ▶ 事業完了時においては、毎月1回まちづくり委員会を開催し、住民自らが実施するイベント等の活動内容を検討する場にシフトした。また、計画に基づく事業の実施にあたり、住民が主体的に回遊路の整備方法などの検討に参加した。
- ▶ 今後も地区住民の主体的なまちづくり活動を検討するための場となるよう、市はオブザーバーとして参加する。



(3) 今後のまちづくり方策

○まちの課題の変化

- ▶ 生活環境や営農環境への影響
 - ▶ 新名神高速道路の整備に伴う代替地移転や農地の機能復旧（事業中）
 - ▶ 生活道路の機能維持や治水対策は不十分
- ▶ 人口減少、高齢化の進行
 - ▶ 平成22年3月末の人口は115人、高齢化率は36%に対し、平成27年3月末の人口は82人、高齢化率は45%であり、人口減少、高齢化は更に進行している。
- ▶ 地域資源の活用による持続可能な地域づくり
 - ▶ 遺跡広場（千提寺菱ヶ谷遺跡）、回遊路・展望台の整備、キリシタン遺物史料館の機能充実により歴史や自然に触れ親しむことができる交流の基盤が創出された。
- ▶ 新名神高速道路のインパクトに対応した交通基盤の整備
 - ▶ ICへのアクセス道路が未整備
- ▶ まちづくりに向けた素地づくり
 - ▶ まちづくりの機運が高まり、住民主体によるイベントを定期的を開催

○今後のまちづくり方策

- ▶ 持続可能な地域づくりの継続
 - ▶ 遺跡広場（千提寺菱ヶ谷遺跡）の確認調査を経て、史跡指定を目指す。
 - ▶ キリシタン遺物史料館の更なる充実（博物館の建設）
 - ▶ 地域住民等による回遊路、遊歩道、展望台の除草等の維持管理
 - ▶ 展望デッキの整備
 - ▶ 回遊路、生活道路としての安全性の向上（市道千提寺2号線整備）
 - ▶ 地区の魅力のPRなどの情報発信
- ▶ 新名神高速道路の供用に伴う通過交通対策
 - ▶ ICへのアクセス道路の確保（市道泉原千提寺線整備）
- ▶ 北部地域全体（山三地区）を対象としたまちづくりの検討
 - ▶ 千提寺地区の住民発意により、平成27年4月に「茨木市北部地域協議会（茨木ほくちの会）」を設立
 - ▶ 北部地域の目指す姿、取組内容を考えるためのワークショップを実施中
- ▶ 地域の維持に向けた地域住民による取り組み
 - ▶ 人口減少、高齢化の進行は北部地域全体に共通
 - ▶ 茨木ほくちの会の活動を支援



(4) フォローアップ計画

○フォローアップの実施について

- ▶ フォローアップの対象となる指標
 - ▶ 数値目標の達成状況を「見込み」で評価を実施した指標
 - ▶ 交付終了後1年以内に達成見込み「あり」とした指標
 - ▶ 今後のまちづくり方策において「改善策」を必要とする場合
- ▶ 千提寺地区都市再生整備計画のフォローアップ計画
 - ▶ 指標を全て「見込み」で評価したため、フォローアップを実施する
 - ▶ 新名神高速道路の開通後に一定期間を置き、平成29年10月頃に実施予定

フォローアップ計画		
予定時期	計測方法	その他特記事項
平成29年10月	平成29年9月に主要施設(忍頂寺スポーツ公園、キリシタン遺物史料館、里山センター)でアンケート調査を実施し、地区滞在に対する満足度を集計し、確定値とする。	
平成29年10月	主要施設(忍頂寺スポーツ公園、キリシタン遺物史料館、里山センター)への平成28年度の年間来訪者数を確定値として求める。	
平成29年10月	地区で開催するまちづくり活動(まちづくり委員会、まちづくりイベント等)への平成28年度の1年間の参加者延べ人数を確定値として求める。	



(5) パブリックコメントの実施 について

○パブリックコメントの実施について

- ▶ 茨木市建設事業評価委員会の開催に先立ち、事後評価原案を公表
 - ▶ 公表資料：千提寺地区都市再生整備計画事後評価シート（原案）
 - ▶ 公表場所：ホームページ、担当課窓口、市役所情報ルーム
 - ▶ 意見等募集期間：平成27年11月4日～12月3日
 - ▶ 意見の受付方法：担当課への持参、郵送、FAX、Eメールなど
 - ▶ 意見の提出状況：意見提出なし



(6) 今後のスケジュール

○評価結果の公表等に向けたスケジュール

- 事後評価シート（原案）の公表（パブリックコメント）
 - ・平成27年11月4日から12月3日の1ヶ月間
 - ・提出意見なし
- 建設事業評価委員会の開催（平成28年2月12日）
- 事後評価結果の国への報告（平成28年3月）
- 事後評価シートの公表（平成28年4月以降）
 - ・ホームページ、市役所情報ルーム、担当課窓口にて公表
- フォローアップ（平成29年10月頃を予定）
 - ・新名神高速道路の開通後に一定の期間を置いて実施